

2023年度 決算説明資料

2024年5月20日

株式会社 **モリタホールディングス**

(証券コード : 6455)

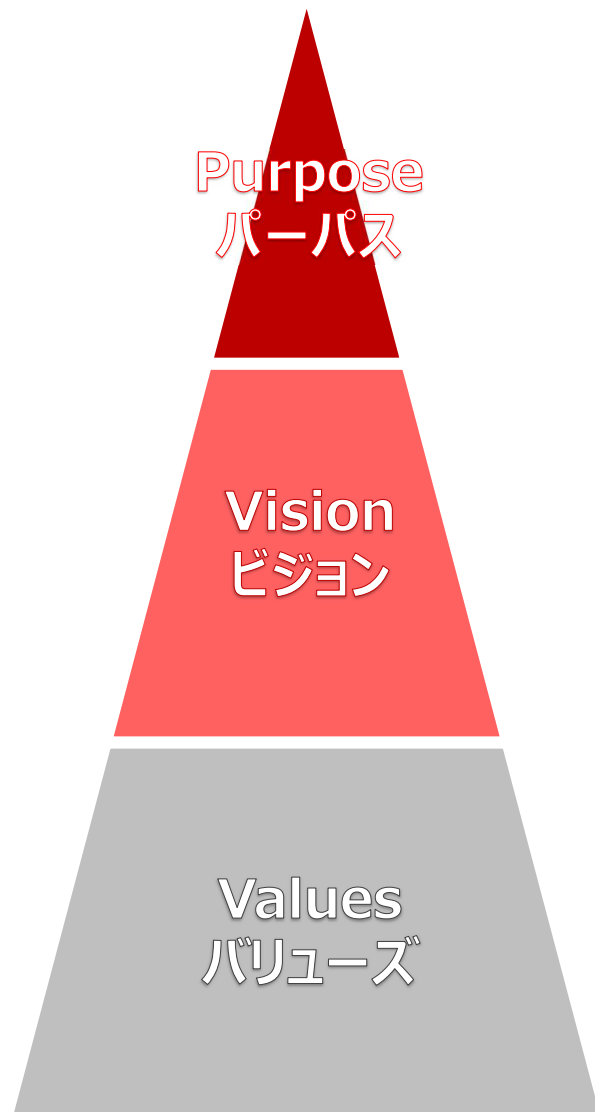
I. 会社概要

- 社 名 : 株式会社モリタホールディングス
(英文名称 : MORITA HOLDINGS CORPORATION)
- 創 業 : 1907 (明治40) 年4月23日
- 設 立 : 1932 (昭和07) 年7月23日
- 代 表 者 : 代表取締役会長兼CEO 中島 正博
代表取締役 社長執行役員 金岡 真一
- 資 本 金 : 47億4,612万円
- 連 結 売 上 高 : 952億円 [2024年3月期]
- 連 結 従 業 員 数 : 1,723名 [2024年3月31日現在]
- 連 結 子 会 社 : 13社
- 持 分 法 適 用 会 社 : 2社
- その他グループ会社 : 5社

事業概要



セグメント	消防車両事業	防災事業	産業機械事業	環境車両事業
営業品目	 	 	 	 
	消防車両 消防車両メンテナンス	消火器 消火設備	産業廃棄物処理機 リサイクルプラント 各種ごみ処理施設	衛生車 塵芥車 環境保全車両
主要事業会社	モリタ モリタテクノス Bronto Skylift	モリタ宮田工業	モリタ環境テック	モリタエコノス
売上高	544億円 (57%)	238億円 (25%)	62億円 (6%)	109億円 (11%)
営業利益	47.2億円 (50%)	32.7億円 (35%)	7.2億円 (8%)	7.5億円 (8%)

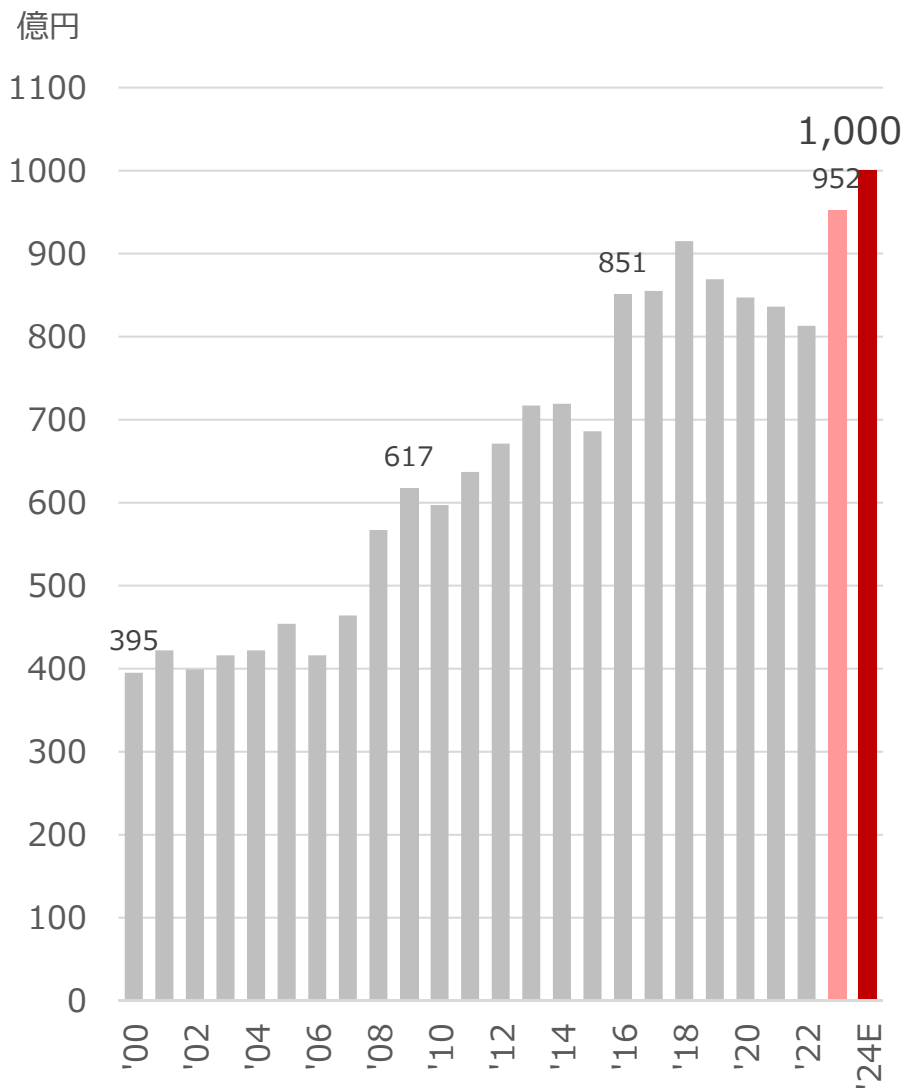


- パーパス（社会における存在理由）
「安心」を支える技術と絶えざる挑戦で
人と地球のいのちを守る
- ビジョン（実現したい社会とありたい姿）
安全で住みよい豊かな社会へ貢献し
感謝され、愛される企業
- バリューズ（大切にすべき価値観）
お客様と社会からの信頼
真摯な企業経営
挑戦と成長
飽くなき革新力
多様性の尊重
自然、社会との共生

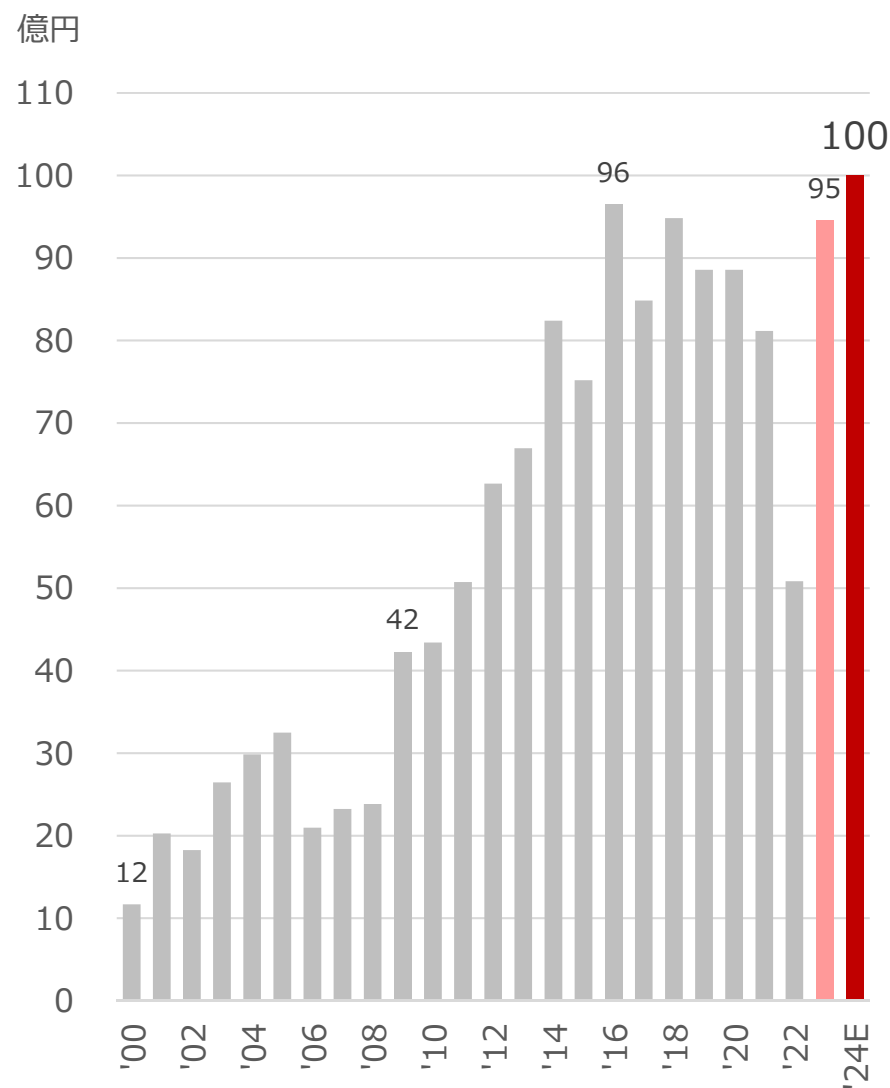
分類	マテリアリティ	関連するSDGs
事業活動に関するマテリアリティ	① 気候変動問題への取組み	 
	② 循環型社会への貢献	    
	③ 安全で安心な社会への貢献	    
	④ 絶えざる技術革新による環境価値の創出	  
	⑤ 製品の品質と安全性の追求	 
事業基盤に関するマテリアリティ	⑥ 実効性のあるコーポレートガバナンスの実践	  
	⑦ 革新力を持った人財の育成	  

Ⅱ. 基本戦略

売上高



営業利益

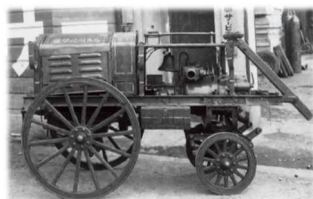


事業展開の変遷



森田正作
が創業

1907



環境車両事業
へ進出

1948



産業機械事業
へ進出

1994



Bronto Skylift
を買収

2016



1910

日本初のガソリン・エンジン
付き消防ポンプを完成



1960

防災事業
へ進出



2008

宮田工業
を買収



2022

東京証券取引所
プライム市場へ移行



マーケットシェア (2000-2023)



消防車輛
(消防車)

59%*



防災
(消火器)

36%*



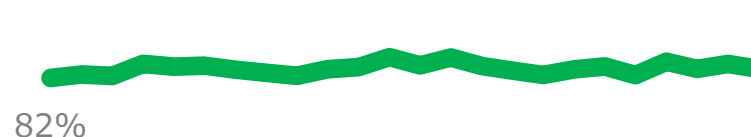
産業機械
(切断機)

74%*



環境車輛
(衛生車)

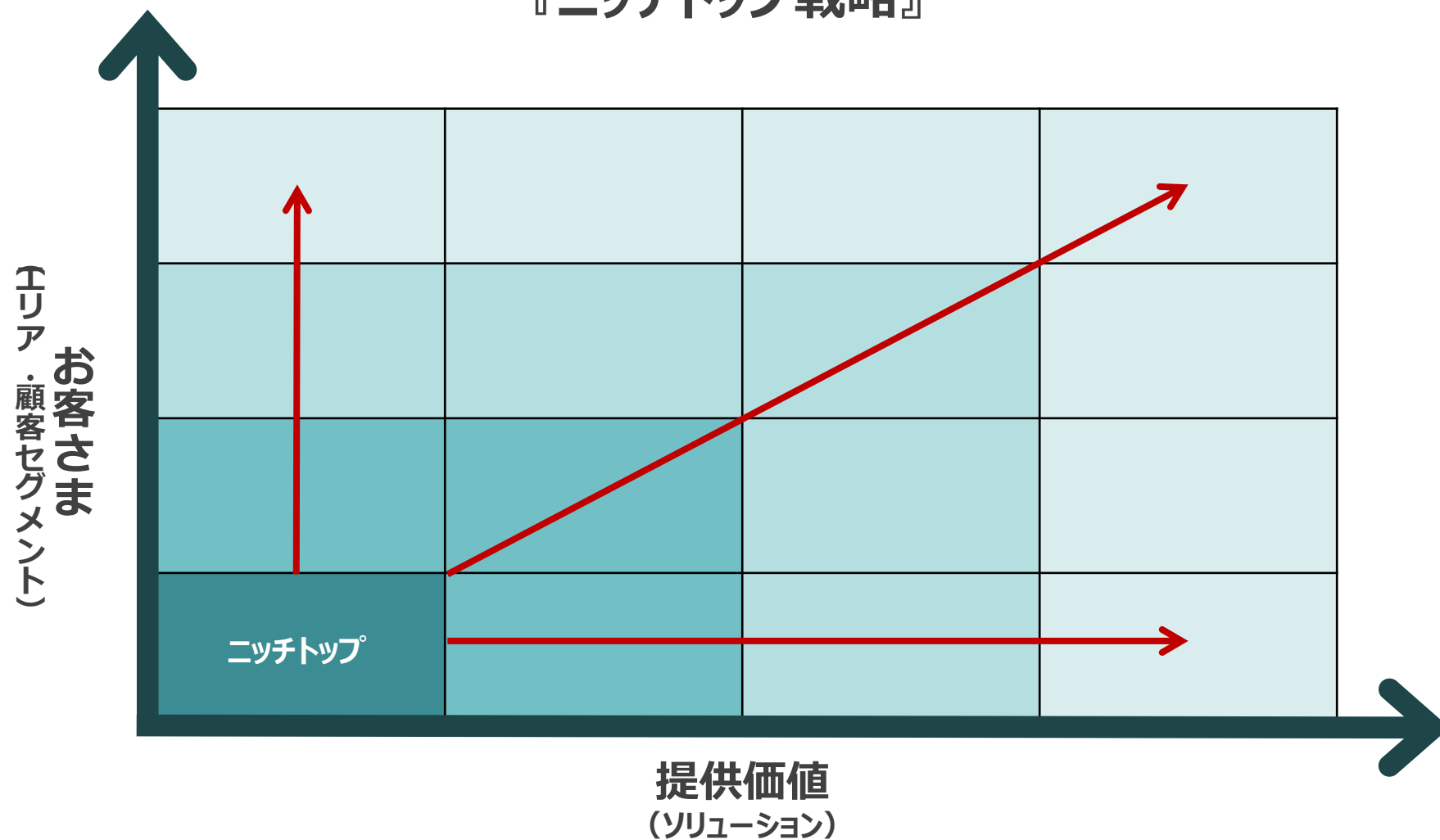
85%*



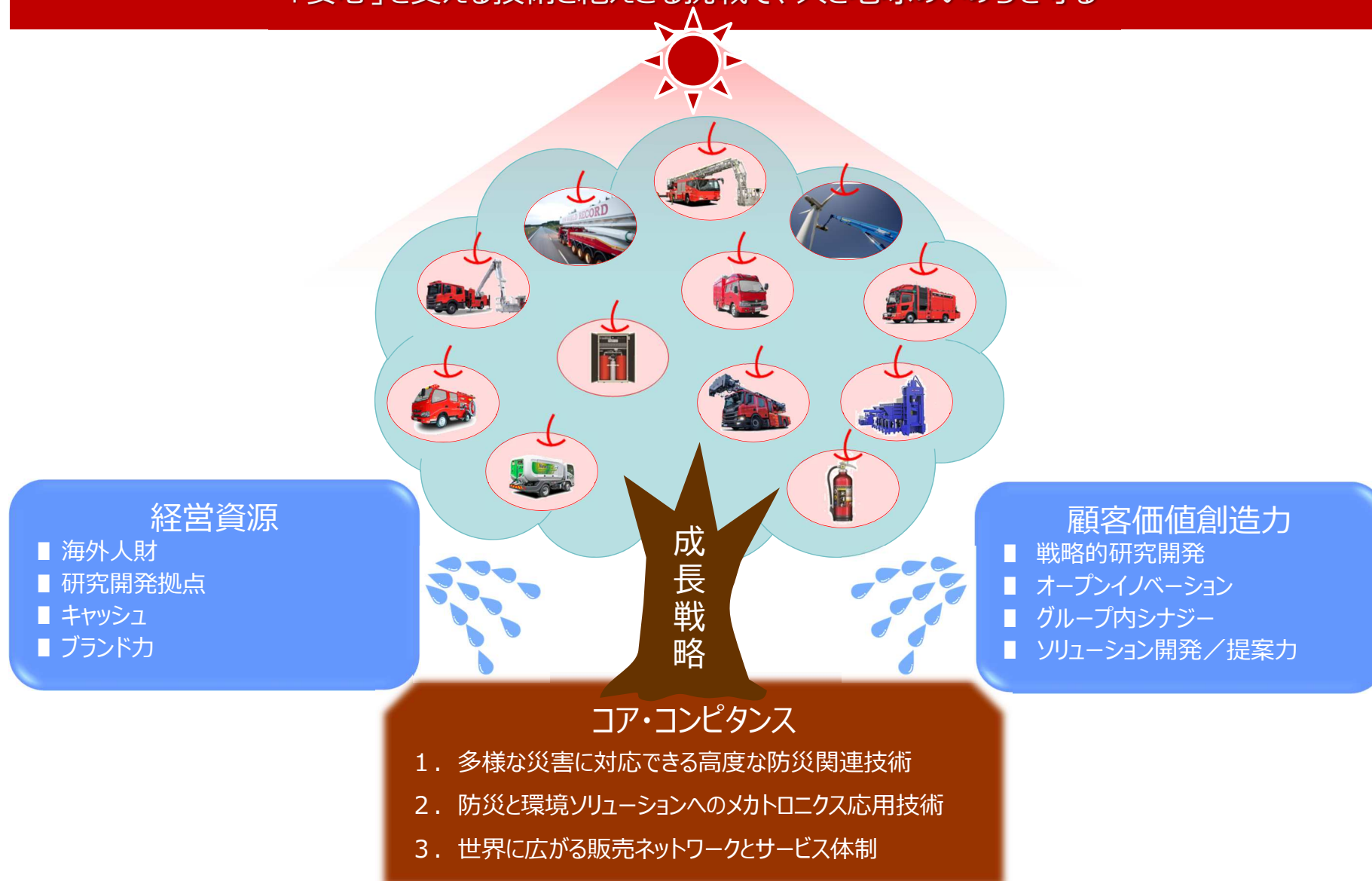
※ 自社調べ

核となるニッチトップを起点に、2つの成長ベクトルでニッチを拡大・開拓する戦略

『ニッチトップ戦略』



「安心」を支える技術と絶えざる挑戦で、人と地球のいのちを守る





新研究開発拠点 **モリタATIセンター** Morita Advanced Technology Innovation Center

オープンイノベーションの推進により、世界に変わらない「安心」をお届けし、「安全で住みよい豊かな社会へ貢献し、感謝され、愛される企業」を目指します。

開発企画室 Development Planning Office

未来の防災デザイン、プロダクトデザイン分野
Future Disaster Prevention Design and Product Design Field

Sラボ Science of Fire Fighting Laboratory

消防防災、環境科学分野
Fire Prevention and Disaster Management, Environmental Science Field

Eラボ Electronics Laboratory

電子/電気機器・情報・通信分野
Electronics/Electrical Equipment, Information, and Communication Field

Mラボ Mechanics Laboratory

機械工学・材料・架装技術
Mechanical Engineering, Materials, and Fabrication Technology Fields



●日本最大級の総合実験場



●放水通路 (55m)



●構造実験室



●大型恒温槽



高さ33m (11F相当)の
防災訓練棟
はしご車等による多様な
消火・救助教育の立案・実証・新製品の開発
ならびに操作訓練(水および泡放射可能)

- 連結送水管
- 緩衝機用フック
- 脱出ハッチ

1F~3F
(日本家庭規模居室)

- さまざまな屋根形状(仕様)
- 模擬太陽光パネル



●イノベーションホール



●カフェテリア



●電波試験室



●XRスタジオ



●ドライバーシミュレーター



●モビリティ研究室

●電子工作室/サテライトオフィス



●燃焼実験



●模擬マンション
[実火災環境(高温、濃煙)の再現と検証]



●化学実験室



●ポンプ実験室



●燃焼試験室

●機械工作室/研修室 (50名収容)

DATA

[所在地]
大阪府八尾市神武町1番43号
Tel: 072-925-4006
[敷地面積] 15,674㎡
[延床面積] 5,121㎡



EN規格対応 先端屈折式はしご付消防自動車
Loikka Aerial Ladder



Bronto Skyliftと共同開発した、EN規格(EU域内における統一規格)対応のはしご付消防自動車。相互の技術だけではなく販路も活用することで、グローバル展開を更に加速。

EV消防ポンプ自動車
MoEVius concept



ゼロエミッション、低騒音・低振動化を実現した、日本初※のEV消防ポンプ自動車。独自開発したePTO（ポンプ駆動システム）とe-Fire Pump（EV専用ポンプ）により、高いエネルギー効率を実現。



EN規格(EU域内における統一規格)に準拠した高性能ポンプユニット。あらゆるEVトラックへの消防ポンプ搭載を可能とし、EV消防ポンプ自動車の普及を推進。

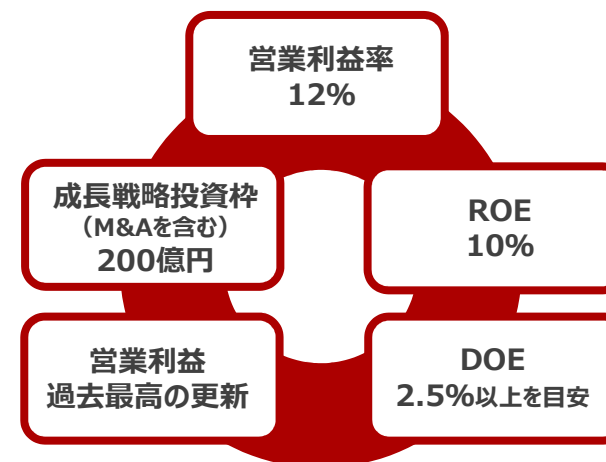
※ 2023年6月 自社調べ

グローバルな総合防災ソリューション企業へ

基本方針

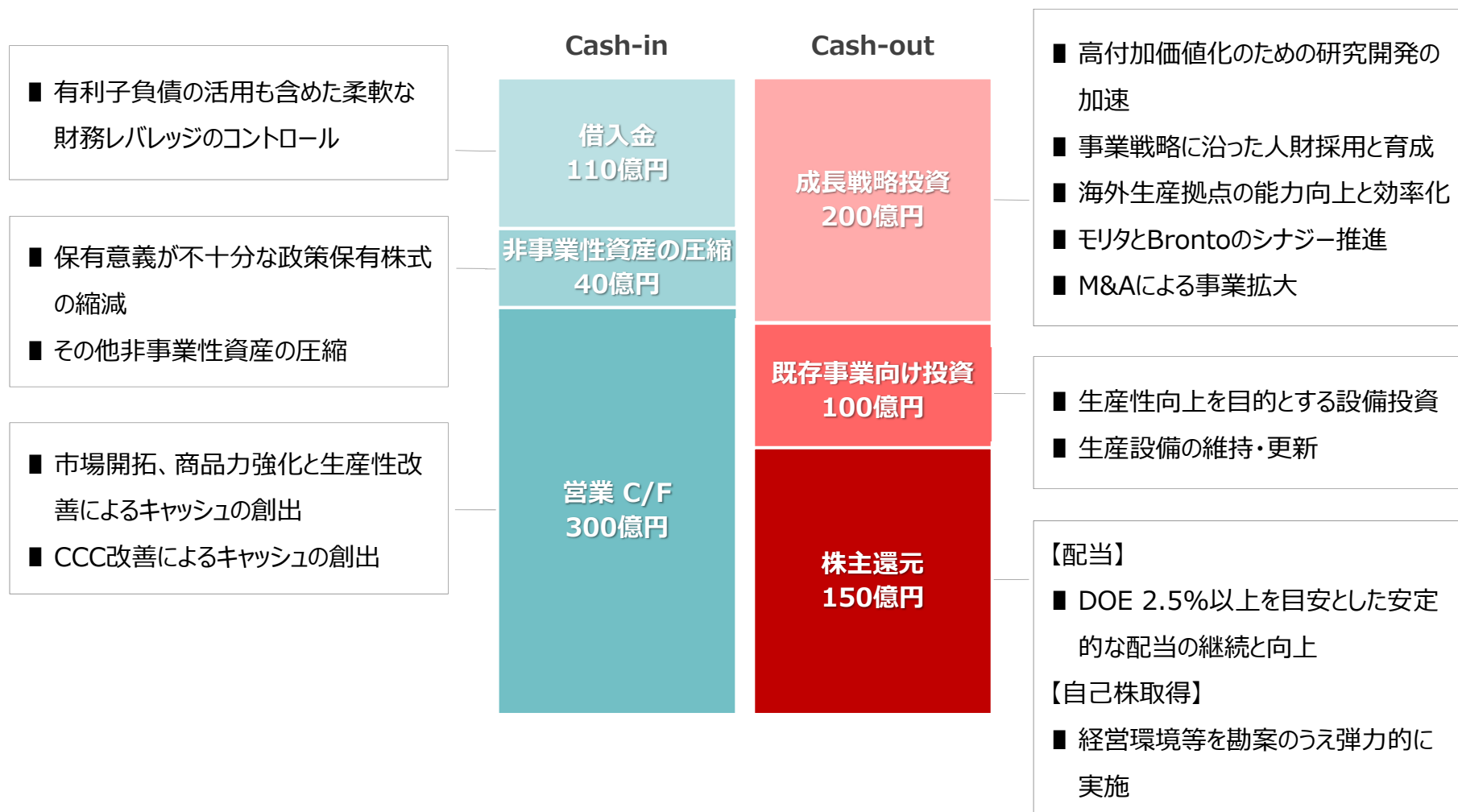
- 1 既存事業の収益力強化
- 2 海外事業・新規事業の育成、拡大
- 3 基礎研究力・新商品開発力の強化
- 4 革新力を持った人財の育成
- 5 CSR活動の推進

経営数値目標（2025年度）



Morita Reborn 2025 (2019 – 2025)

FY23-25 キャッシュアロケーション



Ⅲ. 2023年度 決算概要

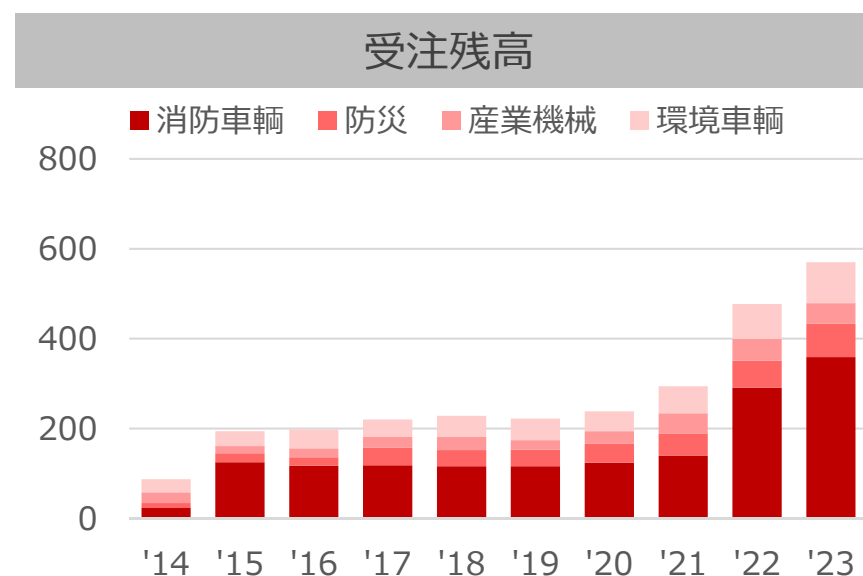
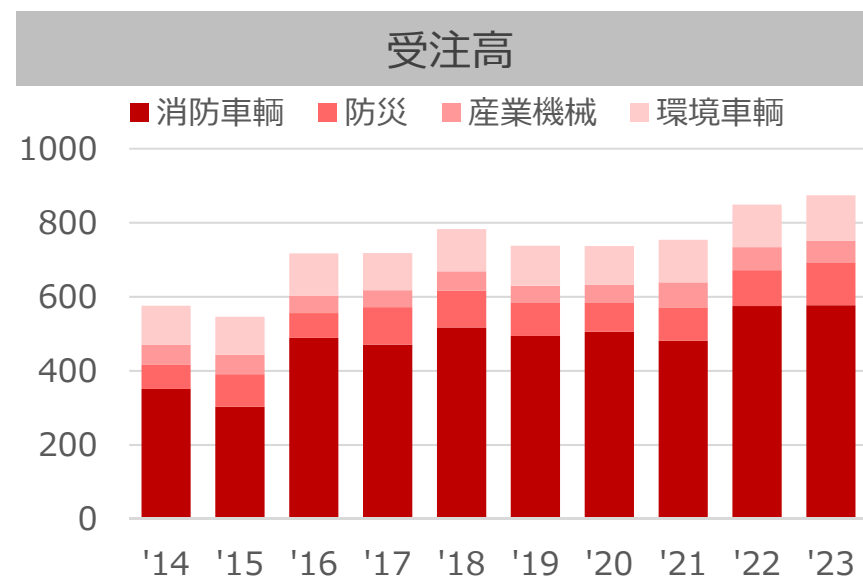
受注状況



(億円)

受注高	2021 実績	2022 実績	2023 実績	前期比
消防車輛	481	575	577	+2
防災	89	97	116	+19
産業機械	69	62	59	-3
環境車輛	115	115	122	+7
連結	755	849	874	+26

受注残高	2021 実績	2022 実績	2023 実績	前期比
消防車輛	140	291	359	+68
防災	49	60	74	+14
産業機械	45	48	46	-3
環境車輛	60	78	91	+13
連結	295	477	570	+93



損益計算書



(億円)

	2022 実績	2023 予想	2023 実績	前期比	予想比
売上高	813	900	952	+139	+52
消防車両	449	510	544	+95	+34
防災	208	220	238	+29	+18
産業機械	59	62	62	+3	-0
環境車両	98	108	109	+11	+1
営業利益	51	81	95	+44	+14
消防車両	18	40	47	+29	+7
防災	20	28	33	+12	+5
産業機械	7	6	7	+0	+1
環境車両	6	7	7	+2	+0
経常利益	59	86	96	+37	+10
当期純利益	40	55	60	+20	+5

前期比コメント

- ✓ 売上高は過去最高を更新。
- ✓ 消防車両事業は、北米でシャシ供給遅延が残りBrontoが苦戦するも、国内消防車両が復調しV字回復。
- ✓ 防災事業は、成長領域として取り組んできた工場向け消火設備の大型案件を獲得し、新たな柱として成長。
- ✓ 産業機械事業は、サーキュラーエコノミー、カーボンニュートラルの流れに乗り堅調。
- ✓ 環境車両事業は、過去最高の受注高を背景に売上高は高水準。
- ✓ 営業利益は、展示会費用や人件費、減価償却費等の増加をこなし、過去3番目の高水準。

貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書



連結貸借対照表

(億円)

	2022 実績	2023 実績	前期比		2022 実績	2023 実績	前期比
現預金	200	264	+64	仕入債務	197	209	+12
売上債権	277	291	+14	有利子負債		14	+14
棚卸資産	207	246	+38	その他	200	257	+57
有形固定資産	333	354	+21	負債合計	398	481	+83
無形固定資産	25	22	-3	自己資本	832	905	+73
その他	198	220	+22	非支配株主持分	10	11	+1
				純資産合計	842	916	+74
資産合計	1,240	1,397	+157	負債純資産合計	1,240	1,397	+157

連結キャッシュ・フロー計算書

	2022 実績	2023 実績	前期比
営業CF	21	112	+90
投資CF	-27	-35	-8
財務CF	-90	-15	+75
フリーCF	-5	77	+82

IV. 2024年度 見通し

業績予想



(億円)

	2022 実績	2023 実績	2024 予想	前期比
売上高	813	952	1,000	+48
消防車輛	449	544	578	+34
防災	208	238	250	+12
産業機械	59	62	62	+0
環境車輛	98	109	110	+1
営業利益	51	95	100	+5
消防車輛	18	47	51	+4
防災	20	33	34	+1
産業機械	7	7	7	+0
環境車輛	6	7	8	+0
経常利益	59	96	105	+9
当期純利益	40	60	70	+10

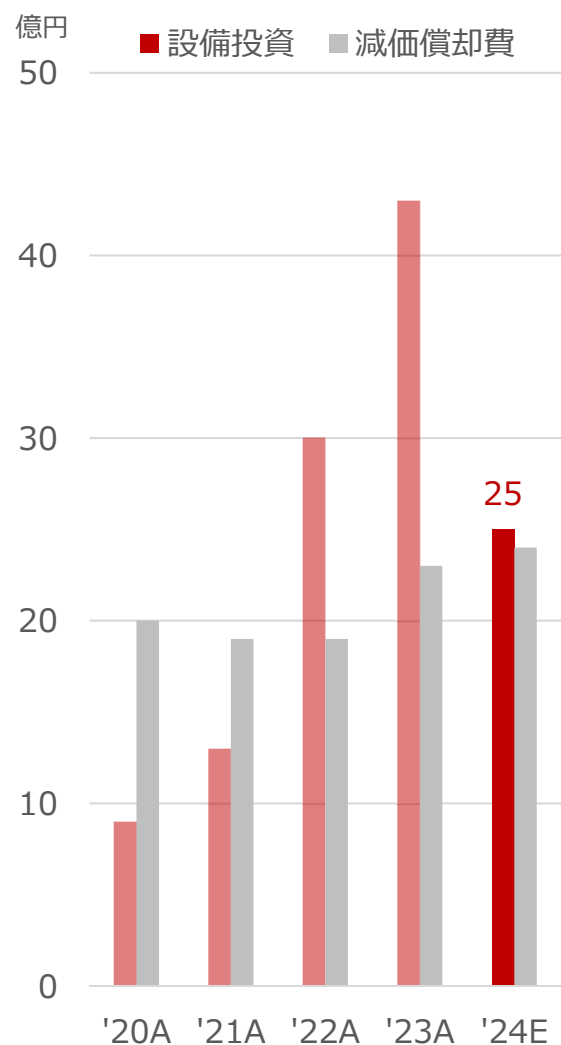
前期比コメント

- ✓ 高水準な受注残高もあり、全セグメントとも増収増益で、売上、利益とも過去最高を更新する見通し。
- ✓ 消防車輛事業は、前期苦戦したBrontoも北米のシャシ供給遅延が段階的に改善。国内需要も堅調で、複数年度予算での発注が続き、今期も次年度への繰り越しを想定。
- ✓ 防災事業は、注力してきた工場向け消火設備が引き続き好調で、売上、利益とも過去最高を更新する見通し。
- ✓ 産業機械事業は、過去2番目の高水準な受注残高もあり堅調に推移する見通し。
- ✓ 環境車輛事業は、過去最高の受注残高もあり堅調に推移する見通し。

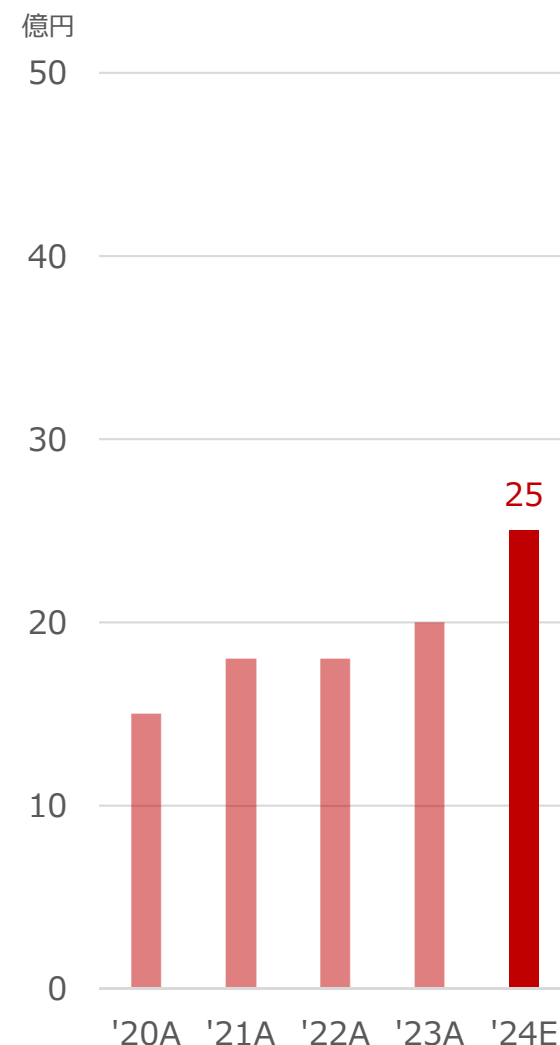
設備投資・研究開発費・配当金



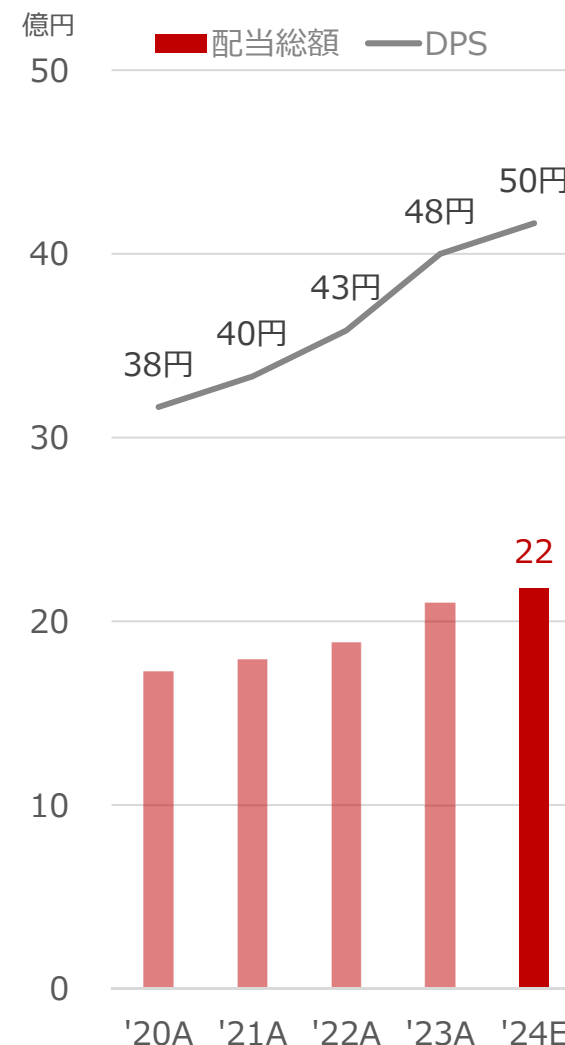
設備投資



研究開発費



配当総額/DPS



Appendix

業績推移



(億円)

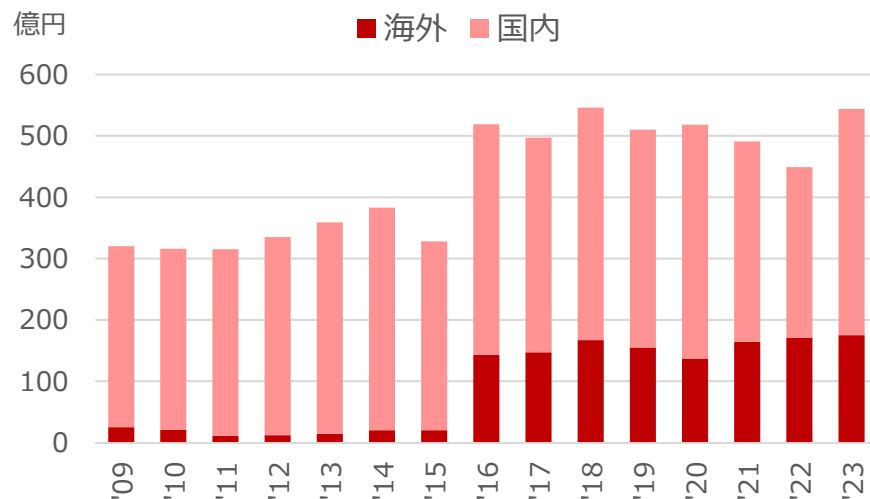
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
売上高	617	597	637	671	717	719	686	851	855	915	869	847	836	813	952
消防車輛	319	316	314	335	359	383	328	520	498	546	510	518	491	449	544
防災	143	135	163	165	174	184	199	182	213	216	198	180	194	208	238
産業機械	34	33	43	54	60	55	60	44	41	47	54	40	52	59	62
環境車輛	84	80	83	90	97	97	99	105	103	106	108	109	99	98	109
自転車	37	33	33	28	26										
営業利益	42	43	51	63	67	82	75	96	85	95	89	89	81	51	95
消防車輛	39	37	33	39	44	57	42	72	55	63	57	66	55	18	47
防災	3	6	12	15	14	15	18	12	21	21	17	10	13	20	33
産業機械	-2	-2	1	2	3	2	4	0	2	4	5	3	6	7	7
環境車輛	3	2	3	6	7	8	11	12	6	8	9	9	7	6	7
自転車	-1	-1	2	0	-1										
経常利益	45	46	53	64	70	84	81	101	90	101	93	95	88	59	96
当期純利益	20	22	28	29	35	47	45	60	57	64	70	62	54	40	60

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
受注高	498	421	495	493	554	576	546	716	718	783	738	737	755	849	874
消防車輛	349	262	296	306	344	351	303	489	471	517	494	506	481	575	577
防災	38	41	54	50	55	65	88	67	101	100	91	79	89	97	116
産業機械	27	37	58	45	56	54	52	47	46	52	45	47	69	62	59
環境車輛	85	81	87	93	99	106	103	114	100	114	108	105	115	115	122
受注残高	121	88	115	94	97	87	194	198	221	228	221	237	295	477	570
消防車輛	81	43	50	37	43	23	125	117	118	116	116	124	140	291	359
防災	10	11	10	9	9	11	20	19	39	36	37	42	49	60	74
産業機械	19	23	38	29	25	24	16	20	24	29	21	28	45	48	46
環境車輛	11	11	16	19	20	29	33	42	39	47	48	44	60	78	91

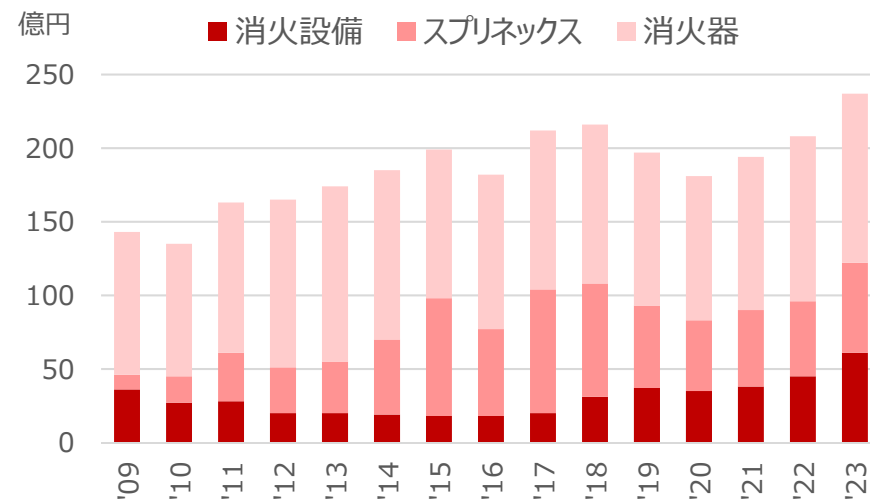
セグメント別 売上構成



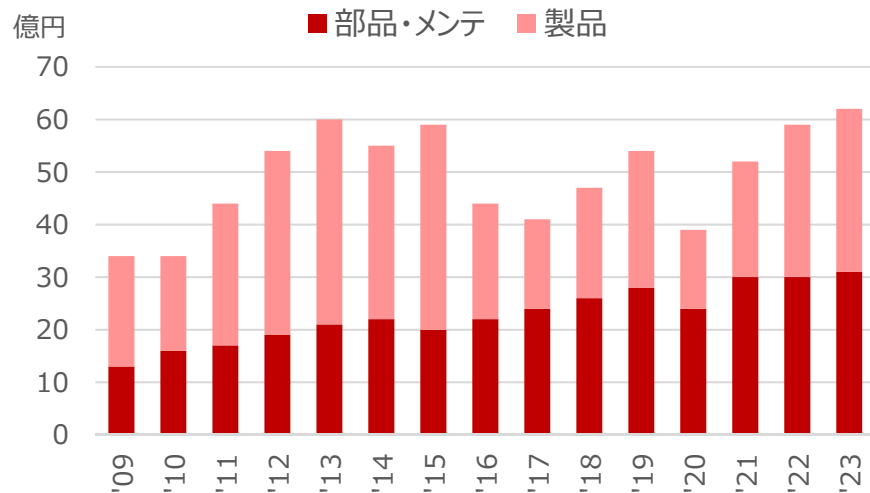
消防車両



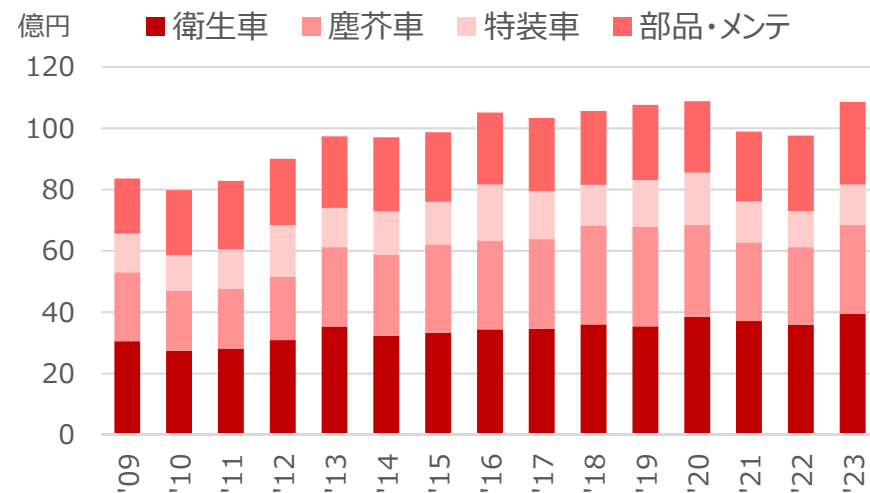
防災



産業機械



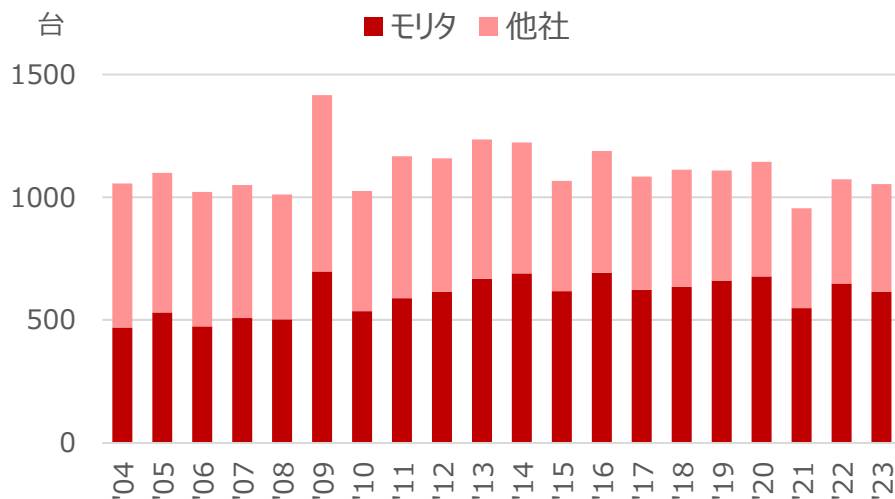
環境車両



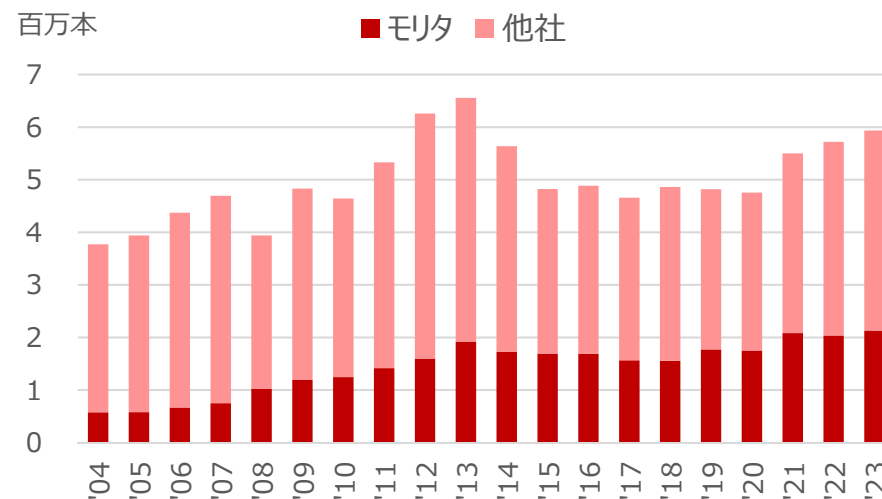
需要数量



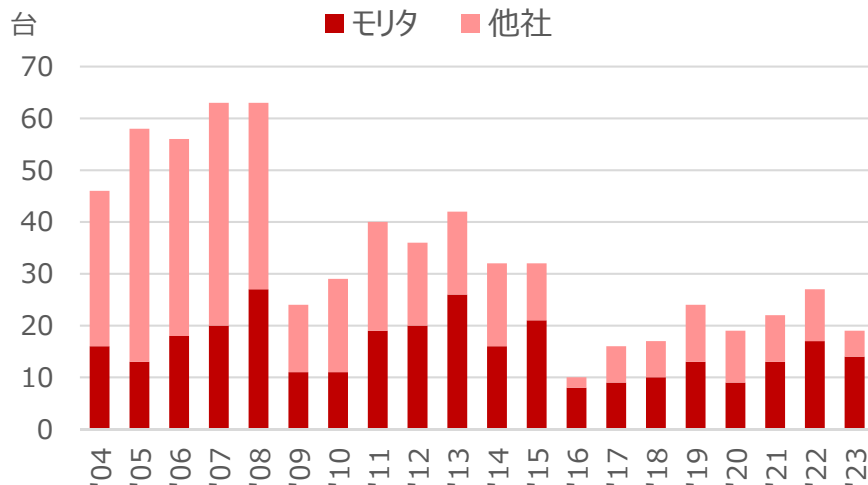
消防車



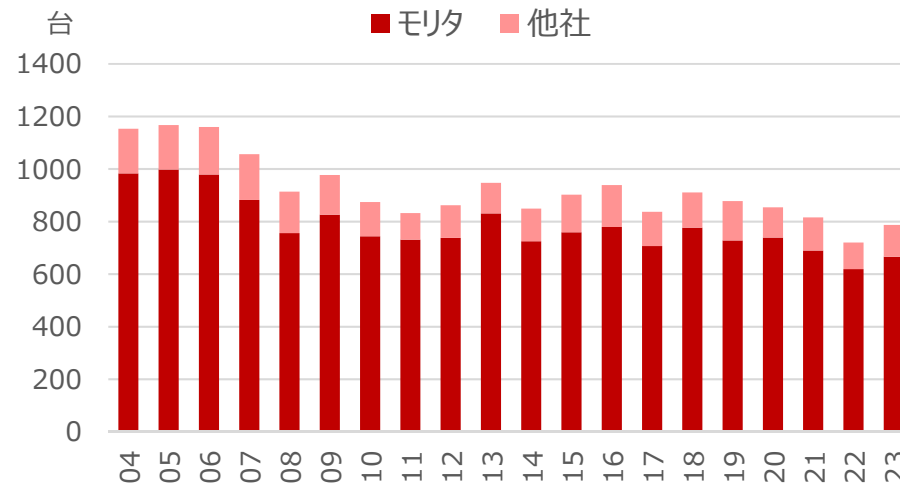
消火器



切断機



衛生車



※ 自社調べ

Bronto Skylift 概要



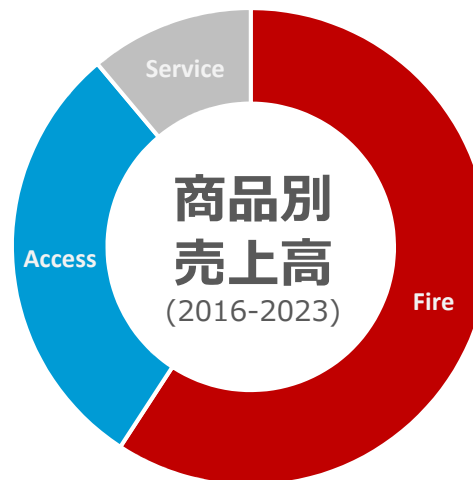
Fire & Rescue



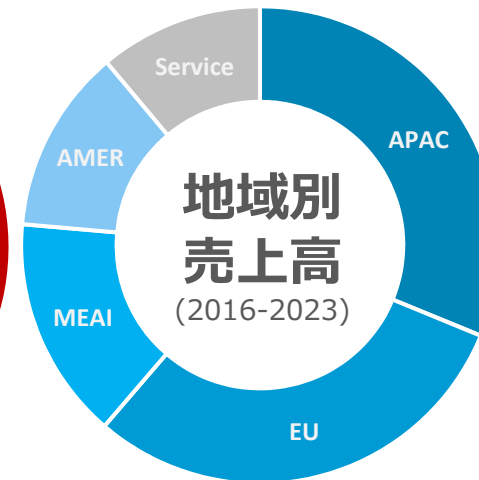
- 社 名 Bronto Skylift Oy Ab
- 所 在 地 Teerivuorenkatu 28, FI-33300 Tampere, Finland
- 設 立 1972年
- 従 業 員 数 407名 (2023年12月31日現在)
- 子 会 社 Bronto Skylift Aktiebolag (スウェーデン)
Bronto Skylift AG (スイス)
Bronto Skylift Deutschland GmbH (ドイツ)
Bronto Skylift, Inc. (アメリカ)
- 事 業 内 容 屈折はしご付消防車および高所作業車の開発・製造・販売



Access



Fire 屈折はしご付消防車
Access 高所作業車
Service サービス



APAC アジア太平洋
EU 欧州
MEAI 中東・アフリカ・インド
AMER 米州
Service サービス



Disclaimer

本資料に記載されている業績予想及び将来の予測、主要市場の経済環境及び製品需給の変動等に関する記述は、入手された情報に基づき判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

なお、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は利用者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。